

取扱説明書

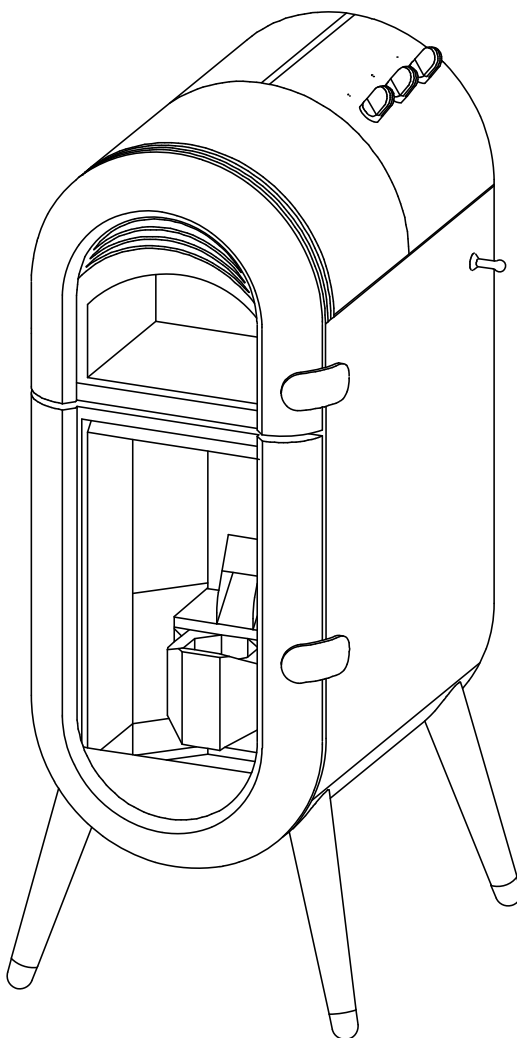
品番 MA-D01

このたびは、本品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用下さい。

お読みになった後は、大切に保管して頂き、取り扱いの分からないときや不具合が生じたときにお役立て下さい。

[保証書別途添付]



安全上のご注意

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読み下さい。

このペレットストーブは、暖房機器です。室内暖房以外のご使用は絶対しないで下さい。室内暖房以外でご使用になった場合の故障・修理・事故その他の不具合については、責任を負いかねますのでご了承下さい。

ここに表示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示の意味は次のようになっています。



警告

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示します。



注意

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重症を負う危険が想定される内容を示します。



してはいけない「禁止」事項です。



しなければならない「実施」事項です。



「注意」事項です。



絶対に分解・修理・改造はしないで下さい。



絶対に触れないで下さい。



必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

高温部には触れない

ストーブの運転中は扉やガラス、煙突が高温になります。やけどの恐れがあるので触れないで下さい。
小さいお子様が見えるご家庭では、ストーブガード等で高温部に触れさせないように配慮して下さい。

**禁止****可燃物の近くでは使用しない**

カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないで下さい。また、スプレーや灯油など引火するものは近づけないで下さい。スプレー缶の破裂や、引火して火災になる恐れがあります。

**禁止****運転中に燃焼室の扉を開けない**

火災、やけど、異常燃焼の恐れがあります。

**禁止****ストーブに用途以外の物を置かない**

ヒートプレートの上に用途以外の物を置かないで下さい。加熱し危険です。
また中身がこぼれやすい不安定な容器や、熱で変形するプラスチックの容器などは置かないで下さい。

**禁止****やけどに注意**

オープンの扉を開けたり、ヒートプレートの容器等を取る際は、厚手の手袋やなべつかみなどを使用してやけどに注意して下さい。

**注意****木質ペレット以外は使用しない**

ペレットストーブ専用の木質ペレット燃料を使用して下さい。ペットのトイレ用や、発電、ボイラー用のペレット使用できません。故障の原因となります。
また、ペレットは食べ物ではありません。乳幼児や小さなお子様の誤飲に注意して下さい。

**禁止****分解修理禁止**

故障、破損したら使用しないで下さい。不完全な修理や改造は危険です。お買い求めの販売店に修理を依頼して下さい。

**分解禁止****無人の状態で使用しない**

燃焼状態が目視で確認できるようにして下さい。無人の状態では運転したり、倉庫などの無人の場所では使用しないで下さい。

**禁止**

お手入れはストーブが冷えてから

ストーブは、停止してもしばらくの間本体と給排気筒は高温です。お手入れは、ストーブが完全に冷えてから行って下さい。火傷の恐れがあります。

**警告****ストーブの清掃**

ストーブ表面の清掃に、研磨剤を含んだ洗剤やシンナー等の有機溶剤は使用しないで下さい。塗装の剥がれや錆の原因になります。

**注意****燃焼室異物混入禁止**

燃焼室には、紙、布などを入れないで下さい。また、ライターやマッチ及び着火剤などで着火しないで下さい。

**禁止****燃料タンクフタの開放厳禁**

運転中に燃料タンクのフタを開けないで下さい。異常燃焼や火災の原因になります。また、開閉センサーが感知すると、ペレットの供給が止まるため立消えすることがあります。

**禁止****エラー発生時について**

エラーが発生した時は、ランプが点灯・点滅し、ブザーが鳴り、ストーブは安全装置が動作します。安全装置が動作している最中にコンセントを抜かないで下さい。

**警告****異常時に使用しないで下さい**

煙が発生したり、異音・異臭がする等異常を感じたときは運転を停止して下さい。火災や異常燃焼の恐れがあります。

**禁止****給排気筒が閉塞した状態で使用禁止**

積雪等で給気口や排気口が閉塞していると、運転中に燃焼ガスが室内に漏れる恐れがあります。除雪等で除去して下さい。

**禁止****給排気筒のはずれ危険**

給排気筒が接続されていない状態では使用しないで下さい。運転中に燃焼ガスが室内に漏れて危険です。

**禁止**

据付上の注意

お客様ご自身による設置はしないで下さい。
据付工事や移転工事は、必ず弊社の販売店にご依頼下さい。施工上の責任は弊社では負いかねます。
ストーブの設置は、火災予防条例等の法令に従って据付けて下さい、



実施

使用しないときは電源プラグを抜く

オフシーズン等長期間使用しないときは、電源プラグを抜いて下さい。
また、濡れた手で電源プラグの抜き差しはしないで下さい。火災や感電、予期しない事故の原因になります。



電源プラグを抜く

電源プラグのお手入れ

電源プラグにほこりが付着している場合は、取り除いて下さい。
ほこりが溜まると湿気などで絶縁不良になり、感電・ショートの原因になります。



実施

電源コードの破損注意

電源コードに物を載せたり、高温部に近づける等、電源コードを破損させないで下さい。
またプラグを抜く際は、コードを持って引き抜かないで下さい。
火災や感電の原因になります。



実施

電源の接続

電源は100V以外では使用しないで下さい。
また延長コード等で電源を延長したり、たこ足配線にしないで下さい。発熱・発火の原因になります。



警告

電源プラグは確実に差込む

電源プラグはコンセントの根元までしっかりと差込んで下さい。
また傷んだプラグや差込が緩いコンセントには使用しないで下さい。
火災や感電の原因になります。



実施

雷サージの取り付け

落雷が多発する地域では、雷サージ付き電源タップの使用をお勧めします。



実施

アースを取り付ける

漏電時に感電の恐れがあります。アース工事は必ず販売店に依頼して下さい。

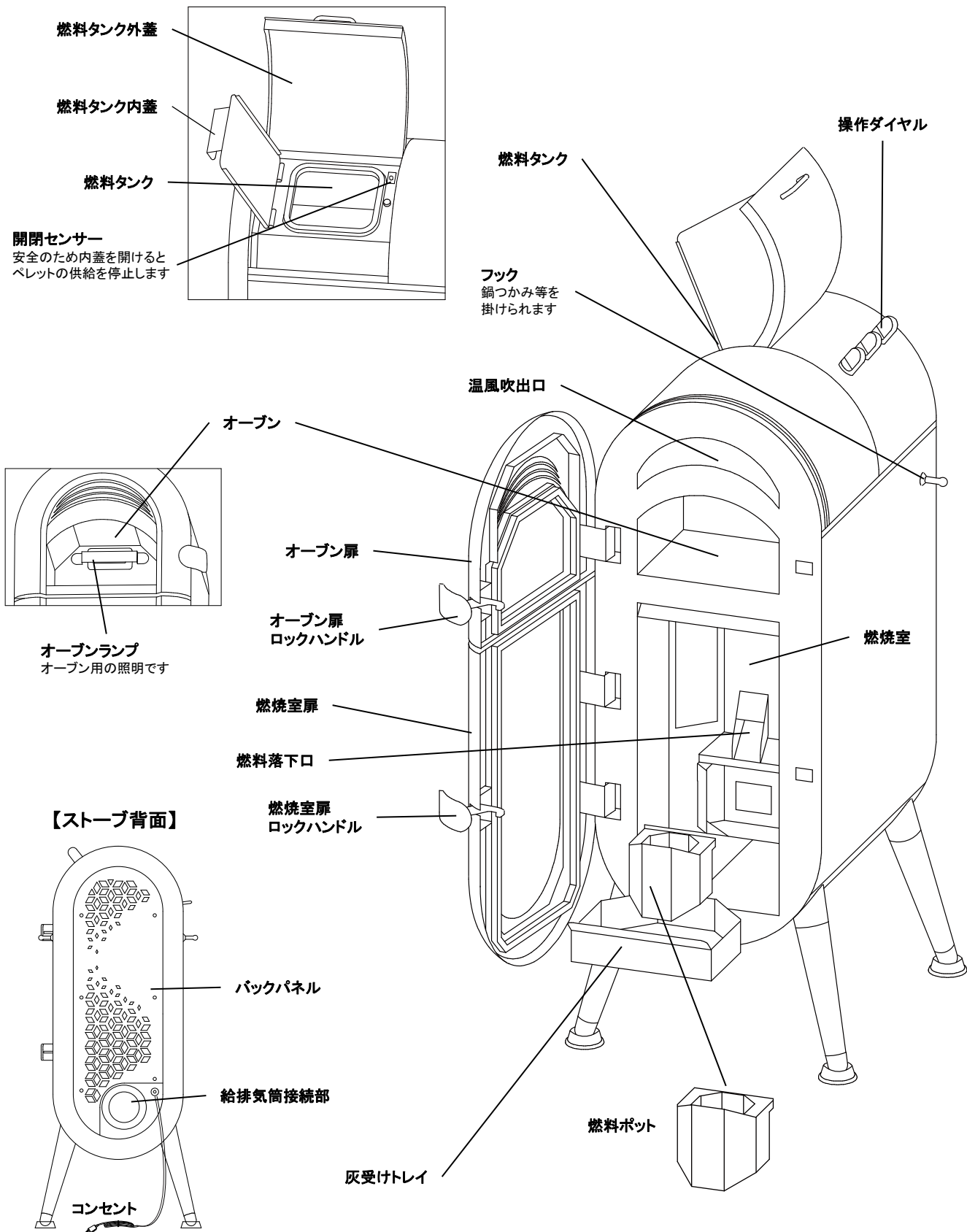


実施

目次

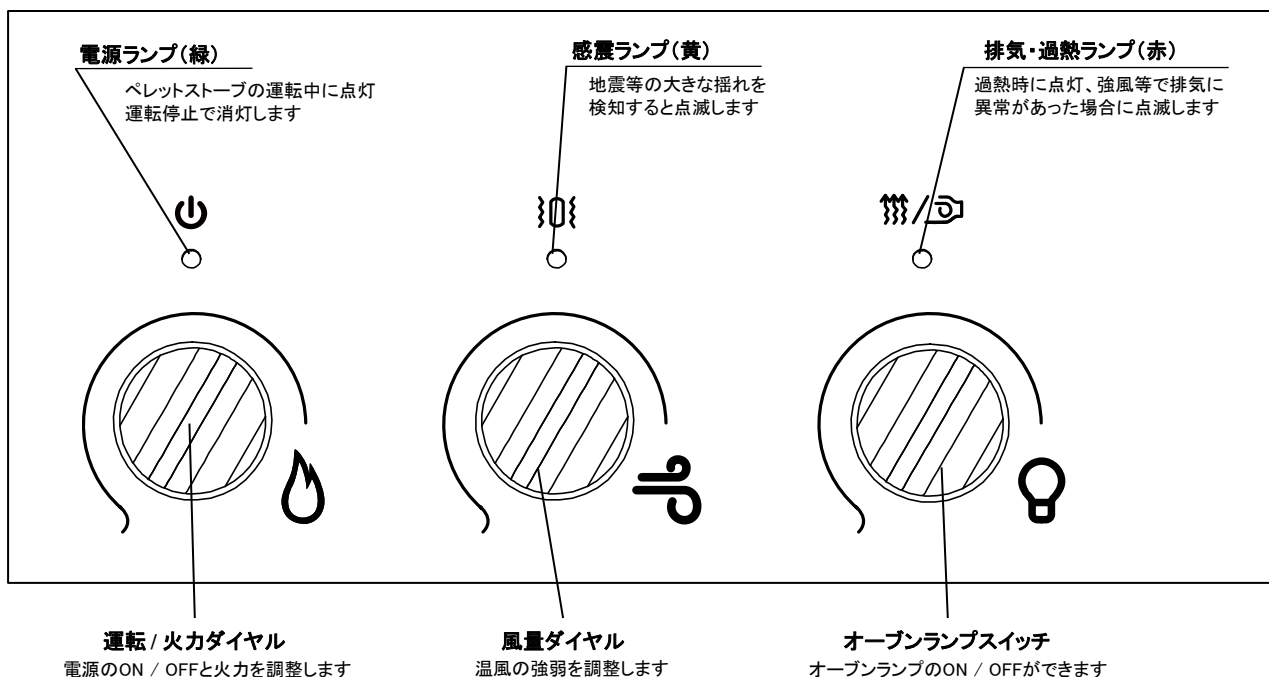
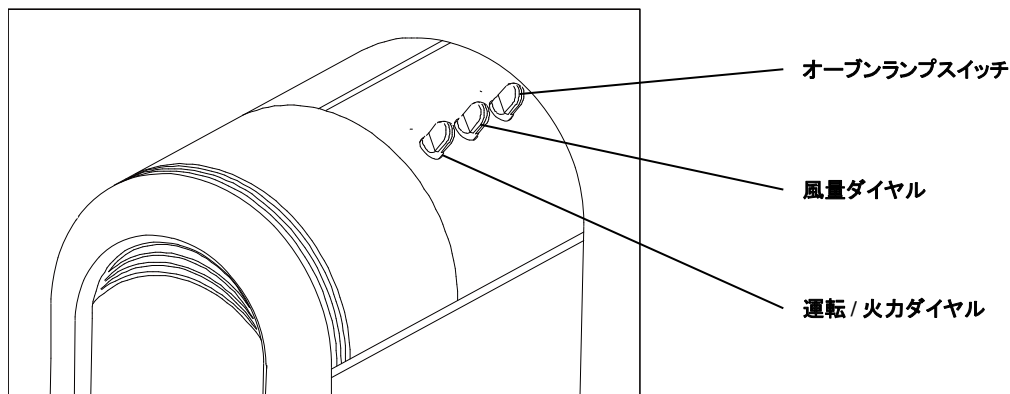
安全上のご注意	1 ~ 4
目次	5
各部の名称と機能	6 ~ 8
ストーブの動作	9
使い方	10 ~ 12
使用できるペレット燃料	10
ペレット燃料の補給	10
燃料タンク蓋の開閉センサーについて	10
扉の開閉	10
ストーブの運転と停止、再起動	10
火力と風量の調整	11
突然風量が大きくなったときは	11
ストーブの使い始め	12
オープンランプ	12
運転中にペレット燃料がなくなったら	12
掃除モード	12
お手入れ	13 ~ 16
燃焼ポット、灰受けトレイ、燃焼室内の掃除	14
給気口、灰受けトレイ裏側、扉と窓ガラスの掃除	15
定期的なお手入れ	15
燃料タンク内の掃除	16
ストーブ本体のお手入れ	16
オフシーズン中のお手入れ、保管	16
危険な状態と対処法	17
正常な燃焼	17
不完全燃焼	17
燃焼室の中が見えない	17
ペレットが山盛りの状態になっている	17
ストーブ本体から煙が出た場合	17
緊急時の消火方法	17
故障かな？と思ったら	18 ~ 19
仕様	20

各部の名称と機能

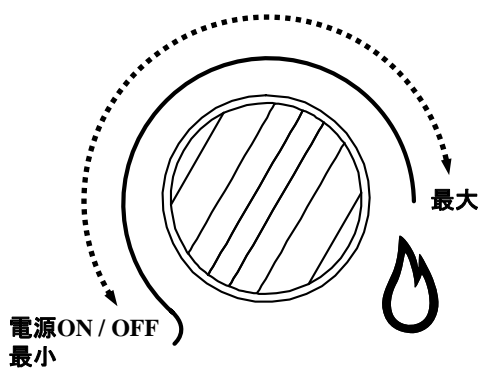


各部の名称と機能

【操作ダイヤル】



【ダイヤル操作】



ダイヤルは右に回すと火力・風量が大きくなります。

【運転 / 火力ダイヤル】

右に少し回すと電源が入り、運転を開始します。左に回しきると電源がOFFになりストーブが消火動作になります。

【風量ダイヤル】

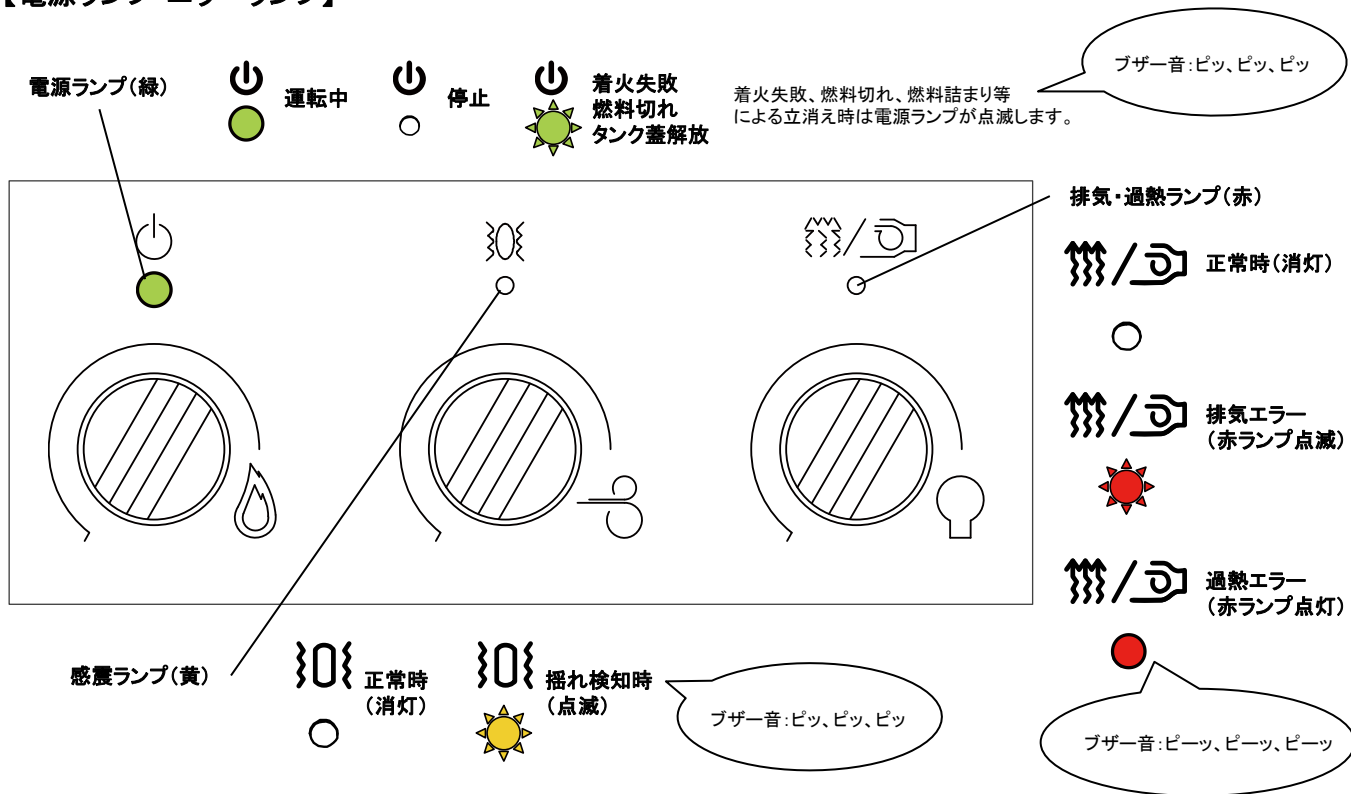
右に回すと温風の風量が大きくなります。仕様上、最小にしても送風は停止しません。

【オープンランプスイッチ】

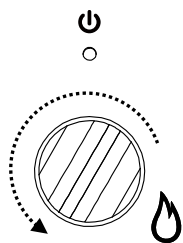
オープンにある照明のON / OFFができます。右に少し回すと電源が入り、右に回すほど明るくなります。

各部の名称と機能

【電源ランプ・エラーランプ】



【ブザー音を止める・エラーのリセット方法】



運転 / 火力ダイヤルを左に回してOFFにして下さい。ブザー音が止まります。エラーになった原因が解消されていれば同時にリセットされます。運転を続ける場合は、手動で元の火力に戻して下さい。OFFの状態のままだとストーブが消火動作になります。

詳しくは19ページをご参照下さい。



エラーランプが点灯・点滅した時は、ストーブの安全装置が動作します。通常の運転とは異なる動作をし、火力や風量の調整ができなくなることがあります。地震の揺れが治まった、強風が治まった等でエラーの原因が解消されれば過熱エラー以外は通常の運転に戻りますが、エラーの原因が解消されていないと再度ブザーが鳴ります。



過熱エラーが発生した場合は非常に危険な状況のため、ストーブ内部のセンサーをリセットしない限り再起動できません。

【エラーの主な原因】



運転中にペレット燃料がなくなった、ペレットが詰まった等



燃焼ポットを掃除しないで長期間使用した、火力: 大、風量: 小で長時間運転した等



地震による揺れ、ストーブ本体に強い衝撃が加わった等



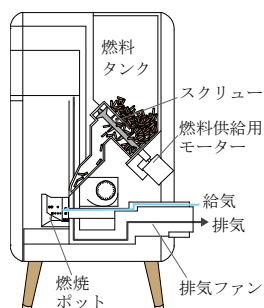
強風が吹いた、煙突内部に灰が堆積して詰まった等

ストーブの動作

ペレットストーブの運転開始から消火・停止までの基本的な動作です。何らかのエラーが発生した場合は、安全装置が指定した動作で動作しますので通常とは異なる動作をします。エラー発生時の動作については8ページと19ページを参照して下さい。

【運転開始～運転中】

【運転開始】

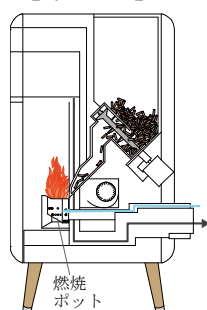


ストーブが運転すると燃料供給用モーターとスクリューが動作し、燃焼ポットにペレットを落とします。ヒーターがペレットを加熱させます。

同時に排気ファンが動作して燃焼後の空気を排出し続けます。

※排気ファンはストーブが停止するまで動作し続けます。

【着火】

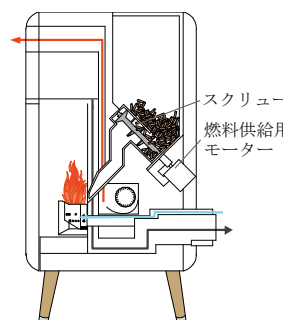


ペレットは自動で着火します。

着火後は燃焼ポットでペレットが燃え続け、設定火力に応じてペレット燃料を供給します。

【運転停止～消火】

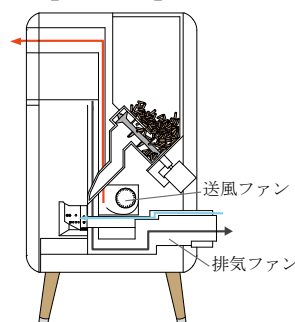
【運転停止】



運転を停止すると燃料の供給が止まります。

ストーブは「消火モード」になり、火を消そうとします。

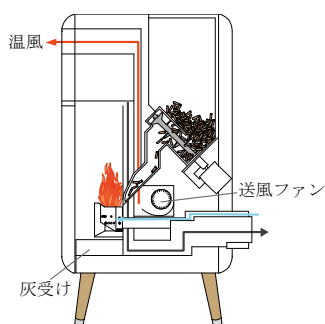
【消火】



燃焼ポットの火が消えます。

火が消えても火種が残っているためストーブ動作を続けます。
送風ファンも動作し続けストーブの温度を下げます。

【送風開始】

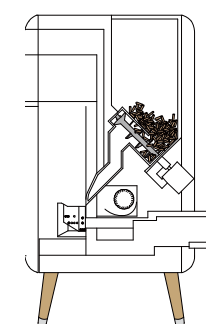


着火後に一定の温度になると送風ファンが動作して温風が吹出します。風量ダイヤルで風量を調整できます。

燃焼した灰は、ポットの底から灰受けトレイに落ちます。

※送風ファンは、ストーブが停止するまで動作し続けます。

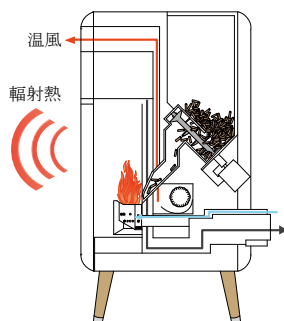
【停止】



一定の温度以下になると自動で停止します。

ただしストーブはまだ高温なので、自然に熱が下がるまでは手を触れないようにして下さい。

【輻射】



温風とは別に輻射熱でお部屋を暖めます。

扉、ガラス等ストーブ前面が高温になりますので火傷にご注意下さい。

暖かさに応じて火力と風量を調整して下さい。

【使用できるペレット燃料】

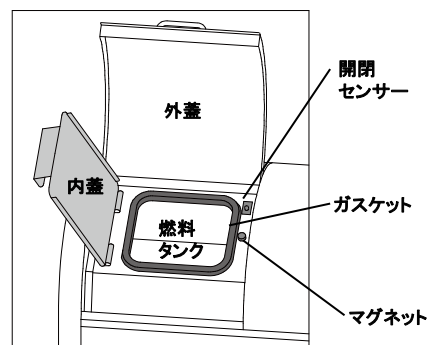
使用できるペレット燃料は、直径6mmの木質ペレットです。樹皮を含む「全木ペレット」と、含まない「ホワイトペレット」専用です。下記の燃料は使用できません。

- ・ パークペレット
ボイラー、発電用の樹皮のみで作られたパークペレットは、燃焼できないため使用できません。
 - ・ 直径が7mm以上のペレット、または6mm未満の細いペレット
7mm以上のペレットは燃料が詰まるので使用できません。ペットのトイレ用の細いペレットも正しく燃焼しません。
 - ・ 木質以外が含まれたペレット燃料
塗料や接着剤等を含んだ木質以外の異物が入ったペレットは、排気経路の閉塞、機器の故障、異臭の原因になります。
- 木質ペレットでも水分を多く含んでいたり、硬いペレット、長すぎるペレットは使用できません。

【ペレット燃料の補給】

ペレットの補給は、ストーブを使用する前に行ってください。燃料タンクのフタは二重構造になっており、外蓋→内蓋の順に開けます。閉じる時は、逆の手順に閉じて下さい。タンクの容量はペレット燃料で約8kg分です。

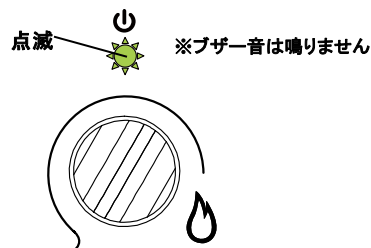
- ・ 運転中にペレットを補給しないで下さい
ストーブは高温になっており、火傷のおそれがあり危険です。
- ・ 内蓋は確実に閉めて下さい
蓋の開閉を検知するセンサーがあり、蓋が空いていると安全のためペレットの供給を停止します。また蓋と本体の間に異物を挟まないよう注意して下さい。
- ・ 異物を入れないで下さい
木質ペレット以外の異物があると燃料詰まりや故障の原因になります。



【燃料タンク蓋の開閉センサーについて】

安全のため燃料タンクの蓋を開けたままでは運転できないようになっています。また運転中に開けた場合は、一定時間後にストーブが消火動作になります。

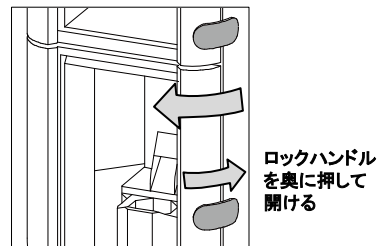
- ・ 蓋が開いたまま運転させた場合
運転ランプが点滅します。ペレットが供給されないためストーブは起動しません。運転される場合は、タンクの内蓋を閉めると起動します。停止する場合は、運転 / 火力ダイヤルをOFFにして下さい。
- ・ 運転中に蓋を開けた場合
運転ランプが点滅し、ペレットの供給を停止します。1分以内に蓋を閉めればストーブは運転を続けます。2分以上経過した場合は、消火動作(9ページの運転停止～消火～停止)になります。
消火モード中に運転 / 火力ダイヤルをOFFにしてからONにすると再起動できます(11ページ)



【扉の開閉】

扉は炉とオープン部の2つあり、どちらの扉もロックハンドルを奥に押してロックを解除し、扉を開けます。閉めるときは逆の手順で閉めて下さい。

- ・ 扉は確実に閉めて下さい
ロックがかかるまでしっかりと閉めて下さい。しっかり閉まっていなくて煙が室内に漏れ出し危険です。また扉を開けたまま運転しないで下さい。
- ・ 運転中に燃焼室の扉を開けないで下さい
高温の扉やロックハンドルで火傷をしたり、火の粉が室内に入るため危険です。



【オープンの扉の開閉】

オープンの扉は、ストーブの運転中でも開閉できます。扉の開閉は、厚手の手袋等を着用して下さい。オープンの上には温風の吹出口があり高温の風が出ています。扉を開ける際は、火傷に注意して下さい。

使い方

【ストーブの運転と停止】

運転 / 火力ダイヤルを右に回すと電源ランプ(緑)が点灯し、運転を開始します。

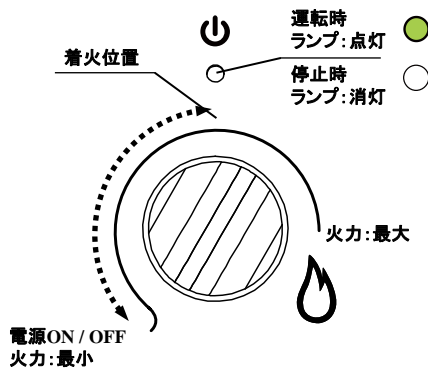
・ 着火時の火力について

ダイヤルの位置で決まります。目安はダイヤルの中間で、電源ランプの真下です。

小さい火力では着火後の立消え・着火に失敗することがあります。大きい火力では大量の煙を出しながら勢いよく燃えるため危険です。

運転を停止させるには、運転 / 火力ダイヤルを左に回しきって下さい。電源ランプが消灯して消火動作(9ページ)に入り、一定時間後に停止します。

停止するまでファンは動作を続けますが、故障ではありません。



【ストーブの再起動】

消火動作中に運転 / 火力ダイヤルを回すとストーブを再起動できます。ただし、燃焼ポットの火種の状態によっては再起動に失敗して立ち消えすることがあります。

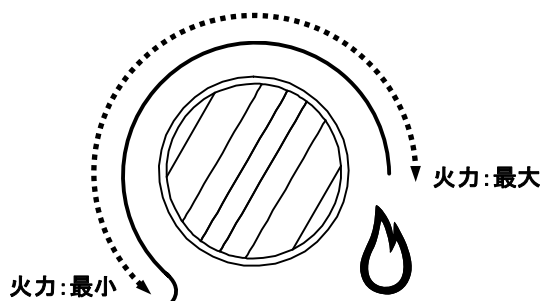
【火力と風量の調整】

着火後、しばらくするとストーブ前面から温風が出ます。お好みの火力と風量に調整して下さい。

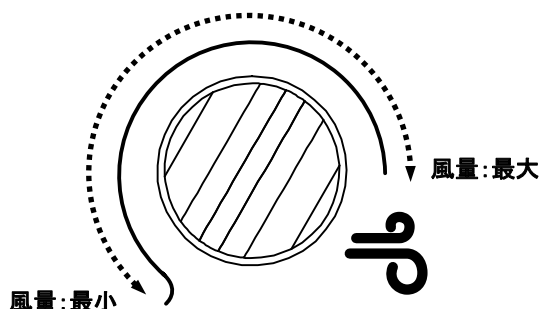
火力は、調整してもペレットの燃焼に時間がかかるため、すぐには反映されません。火力を大きく / 小さくする場合は、少しずつダイヤルを回して調整して下さい。

仕様上風量ダイヤルを最小にしても送風は止まりません。

【運転 / 火力ダイヤル】



【風量ダイヤル】

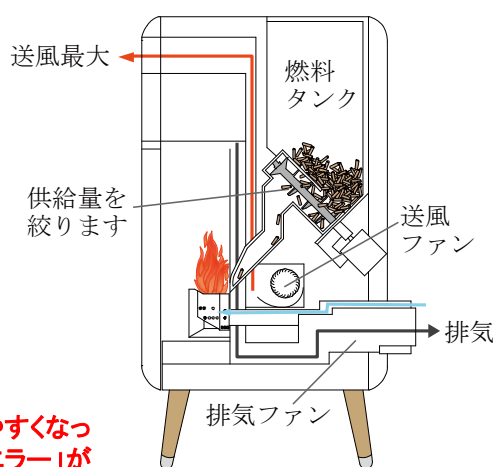


【突然風量が大きくなったときは】

運転中に突然送風が大きくなり、風量ダイヤルで調整できなくなることがあります。これは、ストーブが「放熱モード」が動作したためで故障ではありません。放熱モードは、ストーブが必要以上に過熱しないようにするための安全装置で下記の動作をします。

- ・ ペレット燃料の供給を絞り、送風ファンが最大回転で動作します
- ・ 火力、送風ダイヤルを回しても調整できません
- ・ エラーランプの点灯 / 点滅、ブザー音は鳴りません

設定した温度以下になれば自動で通常の運転に戻り、火力や風量の調整もできるようになります。火力を大きく、風量を小さくした状態で長時間使用していると放熱モードになりやすいです。火力を小さくするか風量を大きくして下さい。



警告

この動作が頻繁に発生する場合は、ストーブが過熱しやすくなっています。この状態で運転を続けるとより危険な「過熱エラー」が発生しやすくなります。

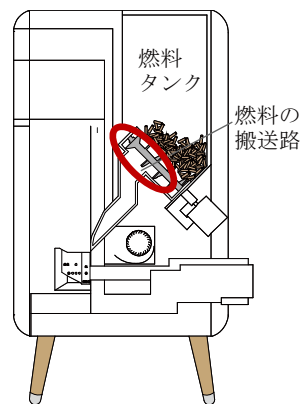
使い方

【ストーブの使い始め】

ストーブを初めて使う、またはオフシーズンにメンテナンスを行って今シーズン初めて使う場合、搬送路にペレット燃料がないことがあります。

この状態で運転すると、ペレットの落下に時間がかかるため着火に失敗することがあります。使い始めは、下記のいずれかの方法をご利用下さい。

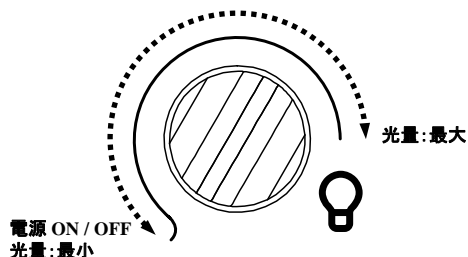
- ・ **運転前に燃焼ポットにペレットを入れておく**
燃焼ポットが約1/3埋まる程度のペレットを燃焼ポットに入れて下さい。火力は通常の着火位置で運転して下さい。
- ・ **大きい火力で着火させる**
火力が大きいほどペレットが落ちてくる間隔が短くなります。着火後にお好みの火力に調整して下さい。



【オープンランプ】

オープンには照明が付いています。オープン内部が暗くて見づらい時に使用して下さい。ダイヤルを右に回すとランプの電源がONになります。調光機能がありますので、右に回すと光量が大きくなります。

【オープンランプスイッチ】



【ランプ:OFF】



【ランプ:ON】

【運転中にペレット燃料がなくなったら】

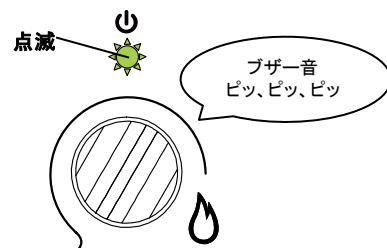
電源ランプの点滅とブザー音(ピッ、ピッ、ピッ)でお知らせします。電源をOFFにしてストーブが停止するまでお待ち下さい。停止した後にペレット燃料を補給して下さい。

ペレットを補給しても搬送路が空になっている時は、着火に失敗することがあります。11ページの「ストーブの使い始め」を参考にしてストーブを起動して下さい。



警告

運転中にペレットを補給しないで下さい
ストーブは高温になっており火傷のおそれがあり危険です。



【掃除モード】

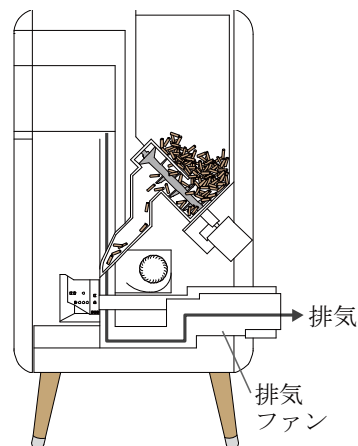
室内に灰が舞うのを抑えます。燃焼室内の掃除の際にお使い頂けます。下記の手順で掃除モードになります。

1. 「運転 / 火力ダイヤル」をONにして2～3秒後にOFFにする
電源ランプが消灯し、排気ファンのみ動作します。
2. 扉を開けて燃焼室内、排気筒の掃除をして下さい。
排気ファンは20分後に停止します。

掃除が終わった後にストーブを使用する場合は、運転 / 火力ダイヤルをONにして下さい。掃除モード中でも通常に起動します。

掃除モードは、室内に灰が舞う事を完全に防ぐ事はできません。掃除の際は、床に新聞紙を敷くなど、床が汚れないように配慮して下さい。

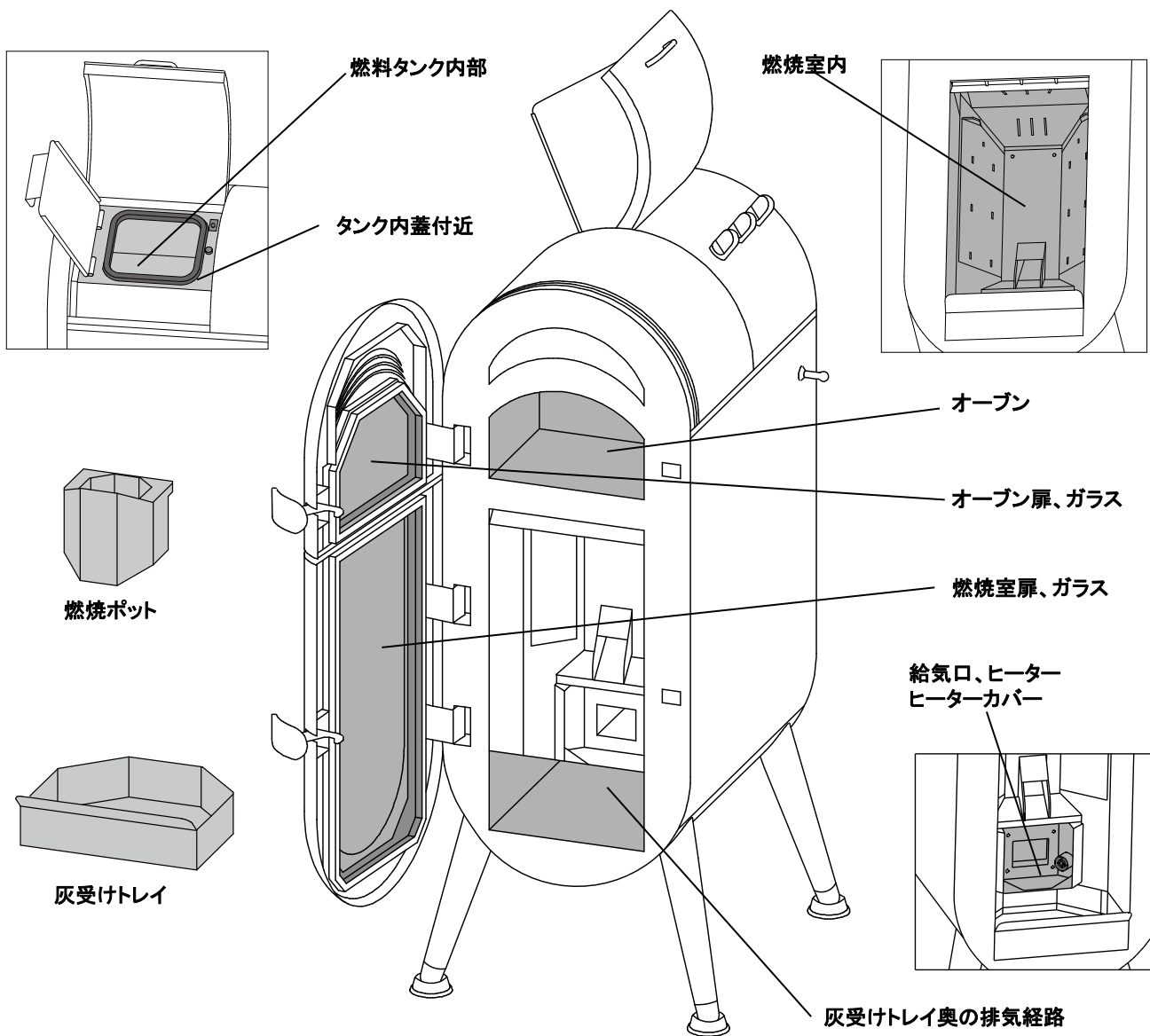
屋外に向かって灰を出し続けます。給排気筒を外して掃除する際は、掃除モードをOFFにして下さい。



お手入れ

【日常のお手入れ】

ペレットストーブ安全にご使用頂くには日頃のお手入れが欠かせません。ご使用前または、ご使用後ストーブが冷えてからストーブの清掃をして下さい。



【必要な道具】

お手入れに必要な主な道具は、下記の道具です。作業の際は作業着など汚れても問題ない服装で行って下さい。

- 付属の掃除用ブラシ
- 手袋、ウェス
- 掃除機(あれば集塵機)
- ガラス掃除用のウェス、新聞紙
- 床の汚れ防止用の新聞紙やマット等

他にはタンク内の掃除用にペレットを掻き出すスコップ、ペレットを入れておくバケツ等があると便利です。あわせて給排気筒の掃除もされる場合は、16ページを参照して必要な道具を用意して下さい。

お手入れ

作業を始める前にストーブを掃除モード(12ページ)にしておくで燃焼室内の掃除の際、灰が室内に舞う事を抑えることができます。

【燃焼ポットの掃除】

燃焼ポットの掃除はとても重要です。灰が堆積した状態で使い続けると着火失敗、立消えや、着火時に大量の煙が出る場合があります。燃焼ポットの清掃は使用のたびに行ってください。

■燃焼ポットの外し方



上を軸にして下側を手前に引き出す

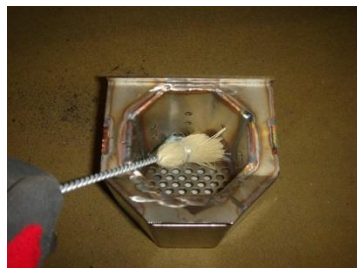


燃焼ポットを下に下げる

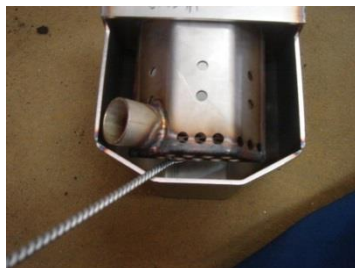


手前に引き出すと外れます

付属の掃除用ハケで燃焼ポットの内部を掃除して下さい。ポットの穴や隙間は、灰を落としたり空気が通る場所です。灰で塞がっていると燃焼に悪影響がでます。ハケが入りにくい場所は、柄の先端部分で掃除して下さい。



燃焼ポット内部



裏側の底面



着火用ヒーターの穴



燃焼ポットを元に戻る場合は、ポットの奥の出っ張り(赤丸)を本体のポット用開口部に差し込み、外した時と逆の手順で元に戻して下さい。

【灰受けトレイの掃除】

灰受けトレイは手前に引き出します。トレイに溜まった灰を捨てて下さい。



灰は、都道府県や自治体によって取扱いが異なります。お住まいの自治体に確認して適切に処理して下さい。



【燃焼室内の掃除】

付属のハケで燃焼室内を掃除して下さい。



燃焼室内は、耐熱塗料で塗装されています。付属のハケ以外の金属製のブラシで掃除をしないで下さい。燃焼室内の塗装が剥がれて錆の原因になります。



お手入れ

作業を始める前にストーブを掃除モード(12ページ)にしておくと燃焼室内の掃除の際、灰が室内に舞う事を抑えることができます。

【給気口の掃除】

燃焼ポットの裏側は給気口と着火用のヒーターがあります。給気口とヒーター付近を掃除して下さい。



ヒーターとカバーの隙間に灰やペレットが挟まっていると着火に失敗したり、ヒーターが早く消耗することがあります。隙間に灰等がある場合は取り除いて下さい。



ヒーターカバー



ヒーター

【灰受けトレイ裏側の掃除】

灰受けトレイの裏側や燃焼室底面に灰が溜まっていると、灰受けトレイが奥まで入らない事があります。底面に溜まった灰を掃除して下さい。

トレイ裏側の開口部は排気経路です。灰受けトレイを戻すときは、燃焼室と隙間がないようにして下さい。隙間があると燃焼に悪影響が出ます。



【扉と窓ガラスの掃除】

ガラスが汚れていると、燃焼の状態が確認できず危険です。またオープン内部の調理の状況を確認しにくくなります。窓ガラスは、きれいな状態を保って下さい。

ガラスは、ティッシュやきれいなウェスできれいになります。こびり付いた汚れは、水を含ませた新聞紙に灰を付けて拭いて下さい。



ガラスの周囲の白いパーツは「ガスケット」です。排気が室内に漏れないようにするための重要な部品です。掃除する際に手を触れないで下さい。万一外れたり、ほつれている場合は、お買い上げの販売店にご連絡下さい。



【定期的なお手入れ】

シーズン中、1ヶ月に1回程度行うお手入れです。ご使用の頻度によりますが、オフシーズンのメンテナンスの際に行う場合があります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談下さい。

【燃焼室裏側の掃除】

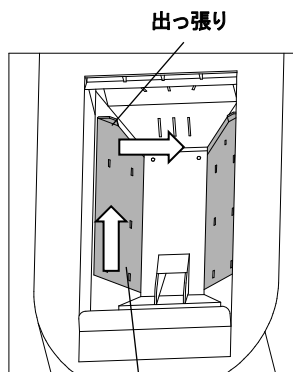
燃焼室の裏側は排気経路です。長期間掃除をしていないと燃焼に悪影響が出る場合があります。

メンテナンスプレートは、出っ張りを持って上に持ち上げて内側に倒すと外れます。この開口部が燃焼室裏側の排気経路です。掃除用のハケで掃除して下さい。

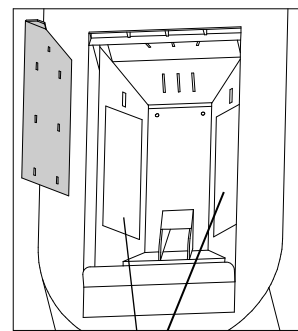
掃除が終わったらメンテナンスプレートを元に戻して下さい。



燃焼室裏側の灰は、灰受けトレイ奥の排気経路に落ちます。落ちてきた灰は取り除いて下さい。



メンテナンスプレート



燃焼室裏側

【燃料タンク内部の掃除】

長い間お使い頂いていると、燃料タンクの底にペレット燃料の粉が堆積していることがあります。少量なら問題はありませんが、粉が多いと搬送路で堆積して燃料が詰まったり、ペレットの供給に影響が出て立消えや着火失敗の原因になります。

燃料タンクの内部に粉が堆積している場合は、ペレット燃料を取り出して粉を掃除機などで除去して下さい。



【ストーブ本体とオープン内の掃除】

ストーブの外装は、放熱を高める特殊な塗装です。外装の汚れは、固く絞った布巾等を使用して下さい。汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を使用し、拭いた後に水分を拭き取って下さい。

オープン内も外装と同様に掃除して下さい。



研磨剤の入った洗剤や、シンナー・ベンジン等の有機溶剤を使用しないで下さい。
塗装が剥がれてサビの原因になります。



【バックパネルの掃除】

バックパネルに「◆」型の開口部があります。部屋の空気を循環させるためこの開口部から空気を取り込みます。開口部がホコリ等で塞がっていると送風が弱くなる、ストーブが過熱しやすくなる他、異音の原因になります。

開口部が塞がっている場合は掃除して下さい。

バックパネル
開口部



【オフシーズンのお手入れ】

ストーブを使い続けていると給排気筒に灰が付着、堆積していきます。オフシーズンに給排気筒の清掃を含めたメンテナンスを行う事をお奨めします。

給排気筒掃除用のブラシをお持ちであれば、オーナー様ご自身で行って頂く事もできますが、掃除の他に消耗品の交換が必要な場合もあります。1シーズンに1回はお買い上げの販売店に依頼してメンテナンスをして下さい。

【給排気筒の掃除】

給排気筒に堆積、付着した灰を専用のブラシで掃除して下さい。灰が堆積しやすいストーブ背面の横引き部分と、T字管や十字管の底は重点的に掃除して下さい。

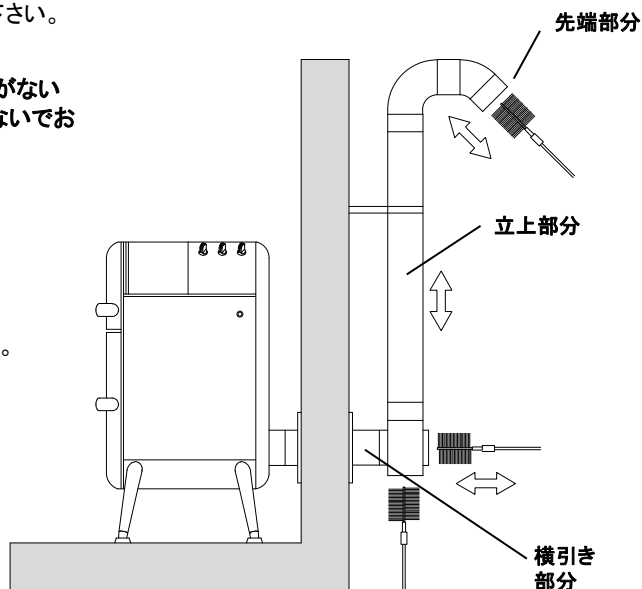


2Fなど高所に設置してあったり、隣家等で作業スペースがない等作業が困難な場合は、オーナー様ご自身では作業しないで
お買い上げの販売店に依頼して下さい。

【オフシーズン中の保管】

長期間使用しない場合は以下の点に留意して下さい。

- 燃料タンク内のペレットは取り除いて下さい
タンク内のペレットは湿気を吸うため粉状になりやすくなります。
使い切るか取り除いて下さい。
- コンセントを抜く
- 給排気筒先端に「排気管キャップ」を取付ける
先端部から虫が入らないように給排気筒の先端を塞ぐ部材です。詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせ下さい。



危険な状態と対処法

【正常な燃焼】

ペレットストーブの燃焼は、黄色く輝く炎で勢いよく燃えます。薪ストーブの燃え方とは異なります。



運転中は、右の写真のような燃焼になるように適時火力を調整して下さい。



【不完全燃焼】

赤黒い炎でユラユラと勢がありません。この状態でお使い頂くとガラスや燃焼室内が黒く煤けます。

このような状態で燃焼する場合は、扉がしっかり閉まっていなかったり、給排気筒内に灰が堆積している可能性があります。

→10ページの「扉の開閉」をご確認下さい。扉が閉まっていれば16ページ給排気筒の清掃を依頼して下さい。

【不完全燃焼】



【燃焼室内の中が見えない】

ガラスの掃除をしていない状態で使い続けると不完全燃焼と同様に燃焼の状態が確認できないため危険です。

→運転を停止して、15ページの「扉と窓ガラスの掃除」を参考にガラスを掃除して下さい。

【燃焼室内の中が見えない】



【ペレットが山盛りの状態になっている】

着火に失敗して再度運転させた時等で、ペレットが燃焼ポット内に山盛りになっている事があります。燃焼ポットのペレットを取り除いて下さい。



この状態で着火させないで下さい。大量のペレットがくすぶってから大きな音と共に一気に燃えるため危険です。また大量の煙が給排気筒から出ます。

【ペレットが山盛り状態】



【ストーブ本体から煙が出た場合】

停電等でストーブが停止、扉や燃料タンクの蓋がしっかり閉まっていない場合など状況によっては煙が室内に漏れ出す事があります。部屋の窓を開けるなどして換気して下さい。

【緊急時の消火方法】

異常が発生した場合は、ストーブの安全装置が動作します。それでも燃料タンクから煙が出続けている等異常な状態が続く場合は、水を多めに含んだタオル、雑巾等を燃料タンクまたは燃焼室内に投げ入れて下さい。



警告

バケツ等で燃料タンクや燃焼室に直接水をかけないで下さい。内部の電気部品が水でショートし、感電する恐れがあります。



警告

扉や燃料タンクの蓋を開ける際は、火の粉が室内に舞う恐れがあります。やけどに十分ご注意下さい。また周囲に可燃物がないことを確認して下さい。火の粉で引火する恐れがあります。

【緊急時の消火方法】





故障かな？と思ったら

エラーランプ(8ページ)が点いたり、トラブルが起きた時は、こちらを読んで対処して下さい。

現象	考えられる原因	対処方法	参照P
ストーブが 起動しない	コンセントが挿し込まれていない	電源コンセントを挿して下さい。	P16
	ブレーカーが落ちている・停電している	ブレーカーが落ちている時はONにして下さい。 停電の時は電気が復旧するまでお待ち下さい。	-
ペレットが 落ちてこない	ペレット燃料がなくなった	ペレット燃料を補給して下さい。	P10 P12
	燃料が詰まっているもしくは、ペレットの粉や 異物が詰まっている	タンク内に異物があれば取り除いて下さい。	P16
着火しない	燃焼ポットが正しく取り付けられていない	燃焼ポットを取付けて下さい。	P14
	ヒーターカバーが灰等で塞がっている	ヒーターカバーの掃除をして下さい。	P15
	ヒーターが消耗している、もしくは切れている	頻繁に発生するようであればヒーターの交換が 必要です。販売店に連絡して下さい。	-
着火時に大量 の煙が出る	着火時の火力が大きすぎる	着火時の火力は最小と最大の間です。	P11
	ペレット燃料が湿気を多く含んでいる	乾いた燃料に取替えて下さい。	P10
	ペレットが山盛りの状態で着火した	燃焼ポットは空の状態着火させて下さい。	P17
	ヒーターが消耗している	頻繁に発生するようであればヒーターの交換が 必要です。販売店に連絡して下さい。	-
炎に勢いがなく ガラス煤ける	燃焼室の扉が閉まっていない	燃焼室の扉を閉めて下さい。	P10 P17
	燃焼ポットが正しく取り付けられていない	燃焼ポットを正しく取付けて下さい。	P14
	給排気筒や燃焼室内に灰が堆積している	燃焼室内、給排気筒内を掃除して下さい。	P16
	灰受けトレイが奥まで入っておらず背面と燃 焼室に隙間がある	灰受けトレイは奥まで挿し込んで下さい。	P14 P15
運転中に 火が消えた	ペレット燃料がなくなった	ペレット燃料を補給して下さい。	P10
	燃料が詰まっている	「ペレットが落ちてこない」を参照して下さい。	-
	火力が小さすぎる	火力を大きくして下さい。小火力で長時間燃焼さ せると立ち消えることがあります。	-
突然風量が 強くなった	放熱モード(ストーブの過熱防止機能)が働い ています	温度が下がると自動で元に戻りますが、それま では火力と風量の調整ができません。元の動作 に戻ったら、火力を小さくするか風量を大きくし て下さい。	P11

故障かな？と思ったら

ストーブからブザー音がした時は、こちらを読んで対処して下さい。

現象	表示	主な原因と安全装置の動作	対処方法
運転ランプ が点滅 ブザー音 (ピッ、ピッ)		着火に失敗した 運転開始から一定時間後に着火を確認できないと、着火に失敗したと判断します。 燃料切れ / 運転中に立消え 運転中に燃料がなくなった、立消えて温度が下がると燃料切れと判断します。	18ページの「ペレットが落ちてこない」、「着火しない」を参照して対処して下さい。 リセット方法は、8ページを参照して下さい。
運転ランプ が点滅		燃料タンクの内蓋が開いている 1分以内に蓋を閉めると通常の運転に戻ります。2分経過で消火モードになります。	6ページと10ページを参照にして、内蓋を閉めて下さい。内蓋が閉まっている場合は、蓋をガasketの間に異物が挟まっていないか確認して下さい。
感震ランプ が点滅 ブザー音 (ピッ、ピッ)		感震センサーが感知した 地震やストーブに強い衝撃がかかると、消火動作になります。	揺れが治まるまでお待ち下さい。 安全装置が働いていますのでコンセントを抜かないで下さい。 リセット方法は、8ページを参照して下さい。
排気・過熱 ランプが点灯 ブザー音 (ピーツ、ピーツ)		過熱センサーが感知した ストーブ本体が異常に過熱しています。全てのファンが最大で動作しストーブの温度を下げようとします。 同時に搬送路のペレットを排出するため一時的に火が大きくなります。 ・火力を大きく、風量が小さい状態で長時間運転した ・燃焼ポットの掃除をしないで使用した ・燃焼室内の掃除をしないで使用した ・温風吹き出し口やストーブ背面、内部に埃が堆積している	お買い上げの販売店に連絡して過熱エラーが発生した原因の調査を依頼して下さい。 このエラーは内部の温度センサーをリセットしない限り再起動できません。またファンの動作も止まりません。
排気・過熱 ランプが点滅 ブザー音 (ピーツ、ピーツ)		排気圧センサーが感知した 強風等でストーブの排気に影響がでています。安全のためにペレットの供給を停止して、ストーブを消そうとします。 ・強風が吹き付けている ・積雪等で給排気筒が閉塞している ・給排気筒に灰が堆積している ・ストーブ内部に灰が堆積している ・シーズンオフに取付けた排気管キャップが付いたままになっている	強風が吹いている間は使用を控えて下さい。風が治まればリセットすれば使用できます。 積雪で給気口や排気口が埋まっている場合は除雪して下さい。 給排気筒やストーブ内部の掃除を行って下さい。
運転中に 停止した (ブザー音なし)		停電でストーブが停止しました。停電が復旧すれば使用できます。	給排気筒を立ち上げてあれば煙突効果である程度排出し続けます。煙が漏れるようであれば換気をして下さい。
感震と排気・過熱 ランプが交互に点滅	 	排気圧センサーの故障を検知した このエラーの場合、リセットしてもブザーが止まるだけでストーブは使用できません。	排気圧センサーの自己診断で故障と判断しました。センサーの交換が必要です。 お買い上げの販売店に連絡して下さい。

商品名	コンコード・メイ
暖房方式	強制給排気(FF) ・ 強制対流方式
点火方式	自動着火
使用燃料	木質ペレットで全木または、ホワイトペレット(バーク不可)
発熱量 (入力)	2,150kcal / h ~ 5,160kcal / h 9,000kJ / h ~ 21,600kJ / h
熱効率	83%
暖房出力	5.0kW
暖房目安	木造(戸建て) 12畳まで コンクリート(集合) 16畳まで
燃料タンク容量	8kg
外形寸法	W384 x D507 x H938
重量	85kg
電源	100V
定格消費電力 点火時	450W
定格消費電力 運転時	60W / 100W
安全装置	感震消火装置・過熱防止装置・逆圧防止装置
機能	掃除モード

- 熱量は、木質ペレットの発熱量、4,300kcal / kg(18,000kJ / kg)を基準に算出しています。
- 暖房目安はペレットクラブ ストープ規格認証委員会の算出・表示方法に基づき、使用ペレットはペレットクラブ燃料規格A1:4,300kcal/kg(低位発熱量)、畳数は「1,000×暖房出力(kw) / 適室基準値(木造:398 コンクリート:298)」で算出しています。
- 製品改良のため、デザイン、仕様の一部を予告なく変更することがあります。
- この製品は、日本国内専用です。海外ではご使用になれません。

部品のご入用、故障の場合、その他取扱上不明な点があった場合には、ご遠慮なく
お買上げの販売店にお問い合わせください。

改良の為お断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

販売店

Shimotani

製 造 元 有限会社シモタニ

岐阜県下呂市萩原町上村853-1 TEL : 0576-52-3775

<https://www.shimotani.com/>